



健康を生かす九州の企業

生産性の向上で収益力強化

従業員の健康づくりに力を入れる企業が増えている。会社を支える人の健康は経営の根幹であり、最重要の経営課題と言っても過言ではない。生産性の向上による収益力の強化も健康あつてこそ。九州では全国健康保険協会（協会けんぽ）の各県支部や自治体が企業の活動を後押ししている。一方、働きやすい環境づくりを含め、従業員の心身に配慮する企業はどのような姿勢で取り組んでいるのか。トップに思いを聞いた。

協会けんぽ 企業活動後押し



従業員の健康に対する意識が求められる（体操も健康づくりの一環）

少子高齢化による労働人口の減少で人材確保の問題は深刻化している。特に従業員数が少ない中小企業にとって人材不足は重大だ。健康に関する企業の活動は就職や転職において企業をみる指標として認識される。そのため自治体も地域経済を支える中小企業の健康づくりを支援することに力を入れる。福岡県では事業所を後押しする「健康宣言ふくおか」を展開。保健師や管理栄養士などの専門家を派遣して計画策定まで導く。

認定で融資受けやすく 各地で中小支援施策

宣言事業所の明和製作所（福岡県糸島市）は、健康診断の有見率を低減するため計画を定めてさまざまな取り組みを行っている。認定はハローワークの求人票に示せるほか、働き方改革に関連した県の制度融資が受けやすくなる。認定企業の中央発条工業（大分県日田市）はクラブ活動が盛ん。運動系では野球、ボウリング、ソフトボール、バドミントン、バレーボール、卓球、陸上がある。仕事場を離れた社員同士の貴重なコミュニケーションの場となっている。熊本県の「ヘルスタ

宣言事業所の明和製作所（福岡県糸島市）は、健康診断の有見率を低減するため計画を定めてさまざまな取り組みを行っている。認定はハローワークの求人票に示せるほか、働き方改革に関連した県の制度融資が受けやすくなる。認定企業の中央発条工業（大分県日田市）はクラブ活動が盛ん。運動系では野球、ボウリング、ソフトボール、バドミントン、バレーボール、卓球、陸上がある。仕事場を離れた社員同士の貴重なコミュニケーションの場となっている。熊本県の「ヘルスタ

毎年更新して継続した改善

明和製作所は電気モーター、歯車、アルミダイカスト製品などの設計・製造・販売を行う。近年は産学官地域連携による電動モビリティ、小水力・風力発電機などの技術開発、事業化にも力を注ぐ。一方で健康経営に取り組みエコ通勤などユニークな活動を展開する。生野社長に狙いなどを聞いた。

明和製作所

「この取り組みの良いところは健康版の『ISO』みたいなもので、22の認定基準項目が明示されており、自社の取り組み状況を総合的に確認することができ、より充実させるためのヒントも得られる。毎年更新していかなければならぬので継続した改善が行える」



明和製作所は創立記念日に従業員を表彰する

「この取り組みの良いところは健康版の『ISO』みたいなもので、22の認定基準項目が明示されており、自社の取り組み状況を総合的に確認することができ、より充実させるためのヒントも得られる。毎年更新していかなければならぬので継続した改善が行える」



社長 生野 岳志氏

「今後再雇用も含め70才現役に向かって行く中で企業が生産性を維持向上していくためには、ベテランも含めた従業員の体と脳が健康に保たれる事は必須であり、健康経営の取り組みは非常に重要だ。また今春も2人の新入社員を迎え入れるが、人材の獲得が難しいを増やす中『ホワイト企業』というPRにもなる。精神面の健康にも配慮されています。『ストレッチエクササイズが義務化されたのは15年12月だ。80人▽設立59年（昭34）11月